

## 特定非営利活動法人日本PostgreSQLユーザ会 設立趣旨書

### 1. 趣旨

データベースシステムは今日のあらゆる社会生活を通じて必須の基幹システムであり、コンピュータによるデータベース管理なくしては一日たりとも生活が成り立たないことは明らかである。ATMからの預金の引出し、列車・航空機の予約は元より、会社における販売管理、在庫管理などあらゆる場面でデータベースシステムが目に見えない形で運用されている。PostgreSQL(ポストグレスキューエル)はこのようなデータベースシステムの一つで、カリフォルニア大学バークレイ校における研究目的の試験環境として使用するために開発されたデータベースシステムを源とし、現在においても世界規模での開発者グループを中心に開発・改良が進められている「オープンソース※1」のリレーショナルデータベースシステムである。日本においては1995年より有志による日本語を含んだ多国言語対応化、およびPostgreSQLそのものの紹介、普及活動がインターネットの普及とあいまって開始され、1999年には日本ポストグレスユーザー会（現日本PostgreSQLユーザ会）がより広範囲な活動を行う目的で設立された。私達はこの活動を通じてこれまでドキュメントの翻訳、技術セミナー、事例紹介セミナーの開催、地方支部による地域密着型の普及活動、各種分科会による勉強会、合宿、出版、更にはオープンソース系のイベント・展示会参加等々を行って来た。数を数えるオープンソースによるデータベースシステムの中でもPostgreSQLは商用データベースに勝るとも劣らない汎用性、可用性およびスケーラビリティを有し、企業の大規模システムにも対応できる性能を備えている。

ここで設立する法人は、この様な優位性を備えているPostgreSQLを、より広く一般の市民、企業、各公共団体、医療機関、教育機関等に対しより広く普及させるため、これまでも増して横断化した活動をおこなうものである。PostgreSQLはインターネットで繋がれた世界各国の開発者の協力で開発が続けられている非常に高品質なデータベースシステムであり、この世界規模で商業的売買を目的としない開発の現状を啓蒙し、無償で提供される成果物を潜在的利用者に普及させるため、寡占化されないソフトウェア技術を個人有志単位ではなく、法人格を持った責任ある立場で援助・推進する事が必須と考えるに至った。特にエンタープライズアプリケーションと呼ばれる大規模で「ミッションクリティカル※2」システム構築にオープンソース系のシステムを導入しようとする対象組織の開発者にとっては継続的な機能の更新における通知、サポートが日本語により身近に受けられるといった「安心感」と「信頼感」を抱けるシステムおよびその推進組織を求めていることは言うまでもない。

そこで、広く一般の人々に対して、誰もが無償で使用でき、ソースコードが公開されたオープンソースデータベースであるPostgreSQLに関する調査研究、開発、啓蒙普及活動、教育等の事業を行い、その成果を社会に還元することによって、情報システムを利用する全ての社会生活の利便性、安全性を向上し、以って公益の増進に貢献するため、特定非営利活動法人日本PostgreSQLユーザ会を設立することとした。

※1 オープンソース：商用システムに対する言葉。一般的にソースコードと言われるプログラムの中身が無償で公開し、利用者の責任において自由に使用してもらう形態を言う。

※2 ミッションクリティカル：目的の作業を間違いなく遂行しなければならない責任を負うものをいう。

### 2. 申請に至るまでの経過

1995年 有志によるPostgreSQLの普及活動開始

1999年7月 日本ポストグレスユーザー会創設 PostgreSQLの普及活動が本格化

2005年5月 第7回日本PostgreSQLユーザ会 会員総会にて、NPO法人への組織変更が承認

平成17年7月14日

設立代表者 片岡 裕生